

## 【院長挨拶】

平成最後の新年が明けました。5月1日からいよいよ新しい年号に改元されます。名前が替わると何やら気分も一新される感じがするのは不思議なものです。

医療の世界に目を転じますと、地域医療構想は徐々に方向が固まりつつあり、今後のわれわれの行き先と地域での立ち位置が、よりはっきりと見えてきた気がします。急性期病院として周囲の診療所や他の病院、施設、さらに行政と同じテーブルの上で、同じ高さ、同じ目線で、より広く深く密接に連携していく必要性を感じます。急性期病院としてはできるだけ早く診断治療を終えて退院して頂くことが重要ではありますが、一方で粗診粗療に陥ることのないように留意しながら、自らのその責任を果たしていかなければなりません。

院内では1月17・18日に5回目の病院機能評価を受けました。この度の病院機能評価受審により、「できていること」「未だ不十分でできていないこと」を振り返って自省しつつ、改善を進めて行かねばなりません。自分たちでは気付かないいろいろな問題点を改めて確認し、行動に繋げていくことが重要です。今回の受審がその改善の契機となるように活用していきたいと考えます。

寺柿 政和



## 【病院機能評価 一般病院 2 <3rdG:Ver.2.0> 受審】

去る1月17日～18日、当院は病院機能評価を受審いたしました。前回2014年5月に一般病院2<3rdG:Ver.1.0>の認定を受けておりましたが、昨年2月電子カルテ更新などで院内の運用なども大きく様変わりし、運用体制バージョンアップ直後の受審となりました。今後ともこのような機会を利用し、より質の高い医療の提供に努めたいと考えております。



## 【災害時トリアージ診療訓練を実施】

日時：2018年10月28日（日）09:00～12:00

場所：東住吉森本病院 1Fフロア

今年度も毎年恒例の災害訓練を実施いたしました。昨年度同様ブラインド型の災害時トリアージ診療訓練。災害想定としては、”平成30年10月29日（月）午前8時30分、上町断層にM7.5直下型地震発生。震源など未発表。大阪市南地区に災害対策本部が設置され、第2配備体制となる。”を想定しました。各現場では、想定していなかった多くのことを体験し、今後の体制づくりという意味で有意義な1日となりました。



## 上肢疾患に対する専門的な治療

整形外科 部長 寺浦 英俊

手は人体の中で最も緻密で鋭敏な感覚を持っている組織で、何か障害が生じると仕事や日常生活上に少なくない支障が生じます。治療にあたっては専門的なトレーニングを積んだ手外科医が担当する方が良好な治療成績を得られると考えます。日本手外科学会が認定する手外科専門医は全国に 932 名おり、現在当院では 2 名在籍しております。手外科認定研修施設は全国で 436 施設あり当院もそのひとつです。対象となる疾患は上肢の骨折、靭帯損傷、腱断裂、神経疾患、血管損傷、腫瘍性病変などです。神経や血管などの微細な組織の損傷に対しては、手術用の顕微鏡を使用して再建術を行っております（図 1）。また手関節の疾患に対しては関節専用の内視鏡（関節鏡）を使用して治療を行っております（図 2.3）。現在は 2 名の手外科医（専門医 2 名）が在籍しており、2019 年 4 月からは 3 名の手外科医（専門医 1 名）の体制となります。地域の先生方ならびに各施設の関係者の方々には上肢疾患患者様をご紹介いただければ幸いと存じます。



図 1. 顕微鏡下の手術



図 2. 関節鏡下の手術

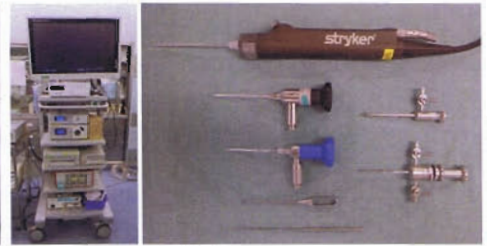


図 3. 関節鏡モニター・器具

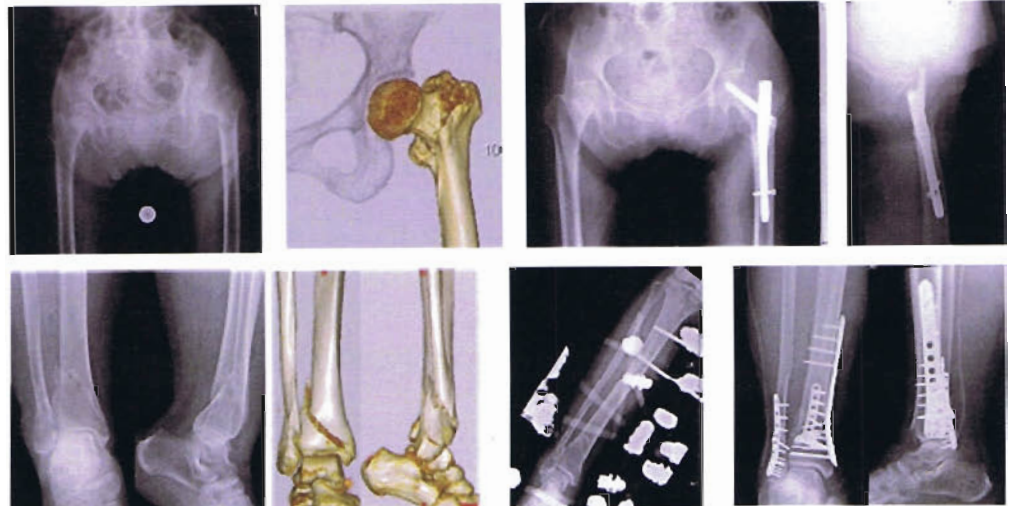
## 下肢外傷について

整形外科 医長 大塚 武夫

下肢外傷は高齢者の骨粗鬆症を基盤とした骨折が多く、この骨折は長期臥床によりやすく内科的疾患を合併しやすいため生命予後を短くすると言われております。当院ではそれを予防し、また患者様の ADL の低下の予防目的に早期手術を行っております。可能な限り手術翌日より離床を可能としリハビリテーションを行えるような手術をすることを心がけております。

代表的疾患である大腿骨近位部骨折に関しては地域連携パスを構築し回復期リハビリテーション病院との連携をはかり 1 日でも早く在宅復帰ができるように努めております。また下腿骨折や足関節の脱臼骨折などでは軟部組織の損傷を伴うことが多く、術後感染や皮膚壊死を伴うことが多いため当院では緊急で創外固定術を行い骨折部を安定させ腫脹が軽減した後に 2 期的に骨折部の内固定を行う staged surgery を行っております。

今後ともより質の良い治療を行い地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。





連載 12 回目で紹介しました、Advance Care Planning (ACP) について、厚生労働省は国民に馴染みやすい言葉となるように愛称を公募し、2018 年 11 月 30 日『人生会議』に決定したと発表しました。

当院では外来と各フロアへポスター掲示をすると共に、入院される全ての患者様へポスターと同じ案内を配布するなどの啓発活動をしています。また、医療者への教育活動として、緩和ケア専従医と緩和ケア認定看護師が中心となり、各部署へ出前授業をするなどの取り組みもしています。

死は誰にでも平等に訪れます。これからもエンドオブライフケアを見据えた支援ができるように、緩和ケア委員一同、精進していきたいと考えています。

【厚生省 HP】自らが望む人生の最終段階における医療・ケア

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisyu\\_iryuu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyu_iryuu/index.html)

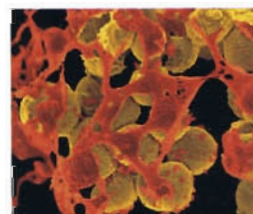
【連載 no.13】 薬剤耐性菌をつくらない・ひろげない 感染防止対策室 室長 荻田 千歌

～ 地域の協力で薬剤耐性菌を減らそう ～

現在、薬剤耐性により、世界では年間 70 万人が死亡しています。このまま何も対策を講じなければ約 30 年後には 1,000 万人が死亡すると予想され、がんの死亡者数を上回る可能性があります。当院でも「薬剤耐性菌をつくらない、ひろげない」を合言葉に薬剤耐性菌の院内感染対策として様々な取り組みを行っています。



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE)



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)

**抗菌薬の適正使用**  
抗菌薬の使用内容、期間の把握と適正使用への介入

**サーベイランス**  
院内における薬剤耐性菌の検出状況の把握や情報の共有

**標準予防策**  
手指衛生や環境清掃の徹底により薬剤耐性菌の伝播を防止

**経路別感染予防策**  
薬剤耐性菌が発生した場合に実施する接触予防策など感染対策の遵守

参考：AMR 臨床リファレンスセンター  
<http://amr.ncgm.go.jp/>

また、包括医療制度が進む今後においては、医療機関のみならず介護の現場においても薬剤耐性菌の管理が必要なケースが発生することが予想されます。

薬剤耐性菌の管理についてお困りの際には、お気軽に当院の感染防止対策室までご相談ください。

## 【RUN 伴 2018 大阪 2 へ参加】

日時：2018年10月27日（土）08:40～16:00

場所：住之江～長居公園～扇町公園ルート

Run 伴は、認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指す、「認知症」について考える啓発イベントです。今回、法人からは訪問看護ステーション、当院からは、緩和ケア病棟・3南病棟・管理部の3チームの医師、看護師、MSW、事務の多職種が参加しました。



## 【第4回 糖尿病と血管合併症を考える会を実施】

日時：2018年11月1日（木）19:00～20:30

場所：ホテル日航大阪 4F 白鳥

<一般講演>【座長】東住吉森本病院 循環器内科 医長 西矢 大輔

「当院における末梢血管治療症例 ①」東住吉森本病院 循環器内科 寺下和範

「当院における末梢血管治療症例 ②」東住吉森本病院 循環器内科 夢田洋平

<特別講演>【座長】東住吉森本病院 循環器内科 部長 坂上 祐司

「心血管イベント抑制を目指した糖尿病治療 ～SGLT2阻害薬の意義～」

福岡山王病院 循環器センター長 横井 宏佳先生



## 【2018年度橘会フォーラム実施】

日時：2018年11月18日（日）9:30～13:30

場所：マイドーム大阪

医療法人橘会で毎年行われるイベント「フォーラム」を実施いたしました。いつもは、真冬の2月頃なのですが、今年は11月の実施。各施設での改善取り組みの発表や特別講演会など、職員にとっては良い自己啓発の一日となりました。



## 【第7回 大阪市南部地区医療講演会を実施】

日時：2018年11月29日（木）18:00～19:30 場所：天王寺都ホテル 6階 吉野の間

Session I【座長】東住吉森本病院 副院長 池邊 孝

「東住吉森本病院における緩和ケアの取り組み～地域とつながる緩和ケア病棟～」

緩和ケア認定看護師 江口 由紀

「地域連携における感染対策～耐性菌の管理を考える～」 感染管理認定看護師 荻田 千歌

Session II【座長】東住吉森本病院 副院長 仲川 浩一郎

「当院での閉鎖性下腿遠位部に対する創外固定治療」

整形外科医長 大塚 武夫

「当院における炎症性腸疾患の治療」

内科医長 高塚 正樹

「心不全における心エコーの役割」

循環器内科医長 宮崎 知奈美



### ■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

### ■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

### ■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

## 東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ  
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m\_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代